



AI が苦手なことは読解力

北海道出身の私がまさか11月に千葉市で雪かきをするようになるとは思いませんでした。冬は確実に近づいています。受験生は特にインフルエンザの予防注射をしておきましょう。

さて今回の中学生の中間テストはどの科目も少し問題が難しいようでした。それでも点数が取れている人といない人の差はどこにあるのでしょうか。テストに出た問題ではありませんが、中学地理の例題を見てみましょう。「仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。」という説明文の後に「オセアニアに広がっているのは（ ）である。」という問題があって、全国調査で3割も正解できなかったというデータがあります。これは国立情報学研究所の新井紀子教授が進めている人工知能（AI）に東大合格させるプロジェクト「東ロボくん」で、AIも苦手としている分野の例として挙げられていたものです。計算の正確さや暗記の正しさで人間がAIに負けるのは何も問題はなく、人間はAIを使って生産性を上げていけばいいことです。それに対して人間は読解力や意味理解を深めることでAIと差別化できるはずで、それなのにそこが苦手な中高生がいるということに、このままでは社会に格差や分断が広がるのではないかと新井教授は危機感を募らせています。

実は初めてこの塾でプログラミング体験をしてもらうねらいもそこにあります。一見プログラムを学ぶことと読解力を養うこととは正反対のようにも思えますが、「論理性」を鍛える道具としてプログラミングを利用してはというアイデアなのです。コンピューターを使って何かをさせたい時にその仕事の意味を理解し手順を考えることが人間の役割です。プログラミング体験をすることにより、順序立てて物事を考える力や、言葉や文章で論理的に伝える力が育つきっかけとなり、他の科目の学習にもプラスになると考えています。将来AIを使いこなすのはあなたたちなのだから！